

藩主の登城—天守と本丸御殿の儀礼—

熊本城調査研究センター 木下 泰葉

はじめに

●熊本城における天守と本丸御殿とは

●「儀礼」の役割

→史料が豊富に残る細川慶順の藩主就任時の儀礼を通じて、天守と本丸御殿がどのように使用されていたのか明らかにする

1 細川慶順と入国儀礼の概要

細川慶順…11代熊本藩主、のちの韶邦。天保6年(1835年)、10代藩主細川斉護の次男として江戸で誕生。万延元年(1860年)、斉護の死去に伴い家督相続

【表1】慶順の藩主就任の経過

藩主就任時の入国儀礼…花畑屋敷や熊本城での家臣対面、泰勝寺・妙解寺への参詣、祝能興行など

2 登城

●日程…万延元年11月1日

●服装…藩主、給仕ともに長袴を着用

●登城ルート【図1】と流れ

①五つ時(午前9時頃)の供揃にて花畑屋敷表御門から出て、頬当御門から入城

②本丸御殿地下の御玄関で出迎えを受ける

③御玄関から大広間に入って各部屋を巡り、御居間で御規式(城代等との対面・祝いの食事)【図2】

④御居間を出て御天守廊下から天守へ

⑤大天守の各部屋を巡り、最上階「御上段」で御規式(城代、家老・中老のうち一人との対面)【図3】

⑥小天守の各部屋を巡り、天守を出て御札之御間で藩主から御留守居大頭へ「火用心等入念」と命じる

⑦居間で半袴に着替え、大広間で床の前に並んだ士席以上の御座敷支配役、椽頬に並んだ独礼の御座敷支配役に対し御城内方御奉行から「火用心等入念可申旨」を申し聞かせる

⑧花畑屋敷に戻り、御居間で熨斗鮑・白米を載せた三方を出して祝う

●登城儀礼の特徴

本丸御殿と天守の各部屋を巡覧。対面儀礼は「御居間」と「鐘之段」での儀礼が主体、限られた身分の家臣（城代、家老、中老）が中心。要所である「御札之御間」で火の用心の「御意」がある。

3 御家中御礼

●万延元年 11 月 5 日・7 日・9 日・11 日・13 日の 5 日間に実施。六半時（午前 7 時頃）の供揃で登城、各日家中より御礼を受け、七半時（午後 4 時頃）に下城

●御家中御礼の日程

初日(11/5)…御一門衆、着座、御鉄炮三拾挺頭、大目附～御用人

2 日目(11/7)…御留守居・御中小姓触頭～御番方三番組

3 日目(11/9)…御番方四番組～御連枝様御知行取

4 日目(11/11)…御中小姓組脇～阿蘇組

5 日目(11/13)…御物頭嫡子～御目見医師・座並

※通常は 3 日間だが、11 月で日照時間が短いため 5 日間に延長

●服装…藩主、給仕ともに長袴を着用

●御礼のおおまかな流れ（着座以上の場合）

①藩主が部屋に出座 ※松の間、表御上段など対面する人物によって異なる

②藩主が三方に載せた土器で御酒を召し上がる

③対面する家臣が部屋に入り、御礼を申し上げる ※身分によって座る位置が異なる

④家臣は酌之者から土器を受け取り、御酒・御肴を頂戴する ※身分によって盃の受け方、御肴の有無が異なる

●御家中御礼の特徴

「松之間」を中心に行われ、場合によって大広間（表御上段・桜之間・梅之間）も対面に使用される。家臣の身分によって部屋の中での座る位置、御酒・御肴を下賜する方法、対面の方法などが大きく異なる。

おわりに

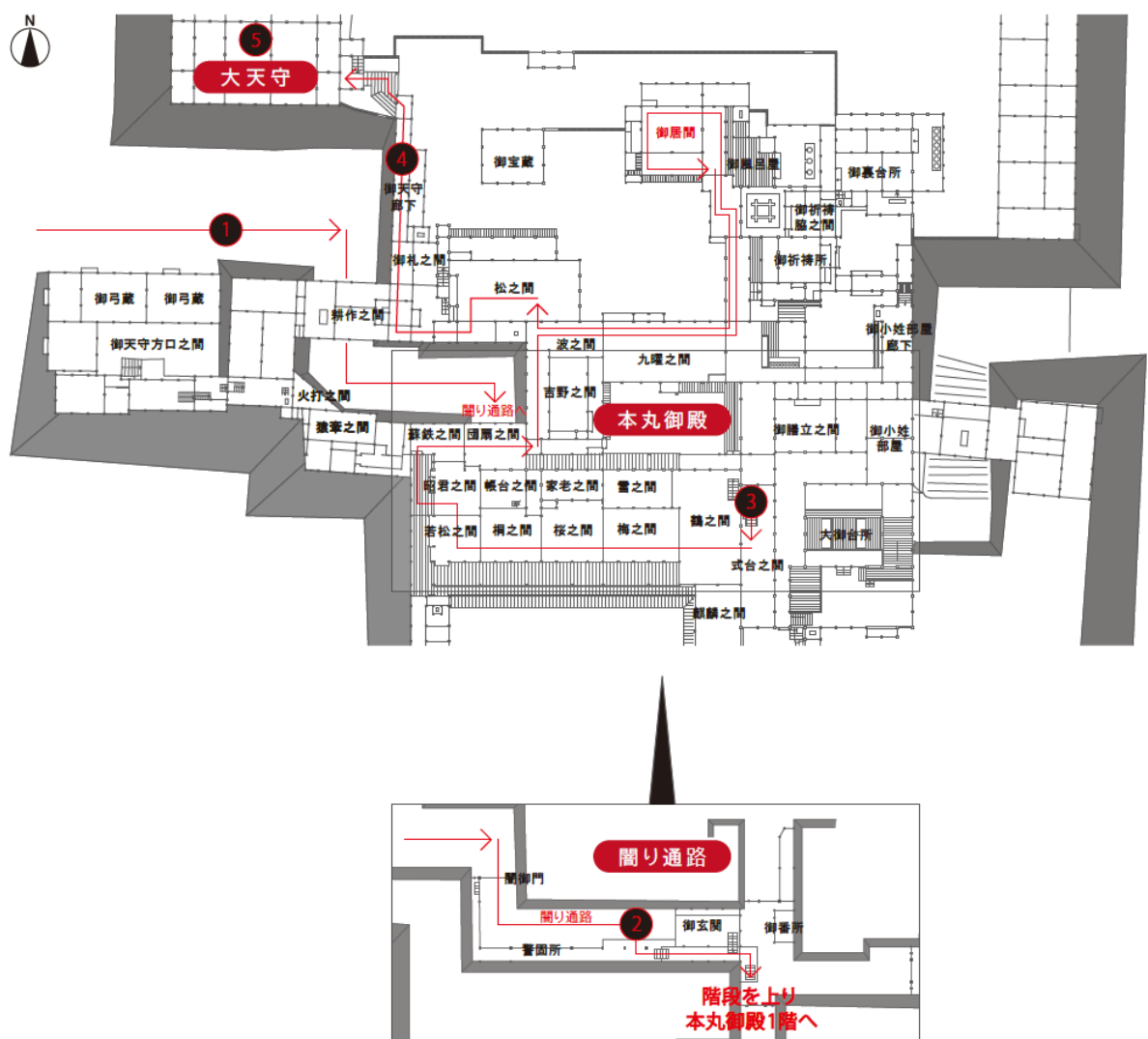
●儀礼における天守・本丸御殿の空間利用

【表1】

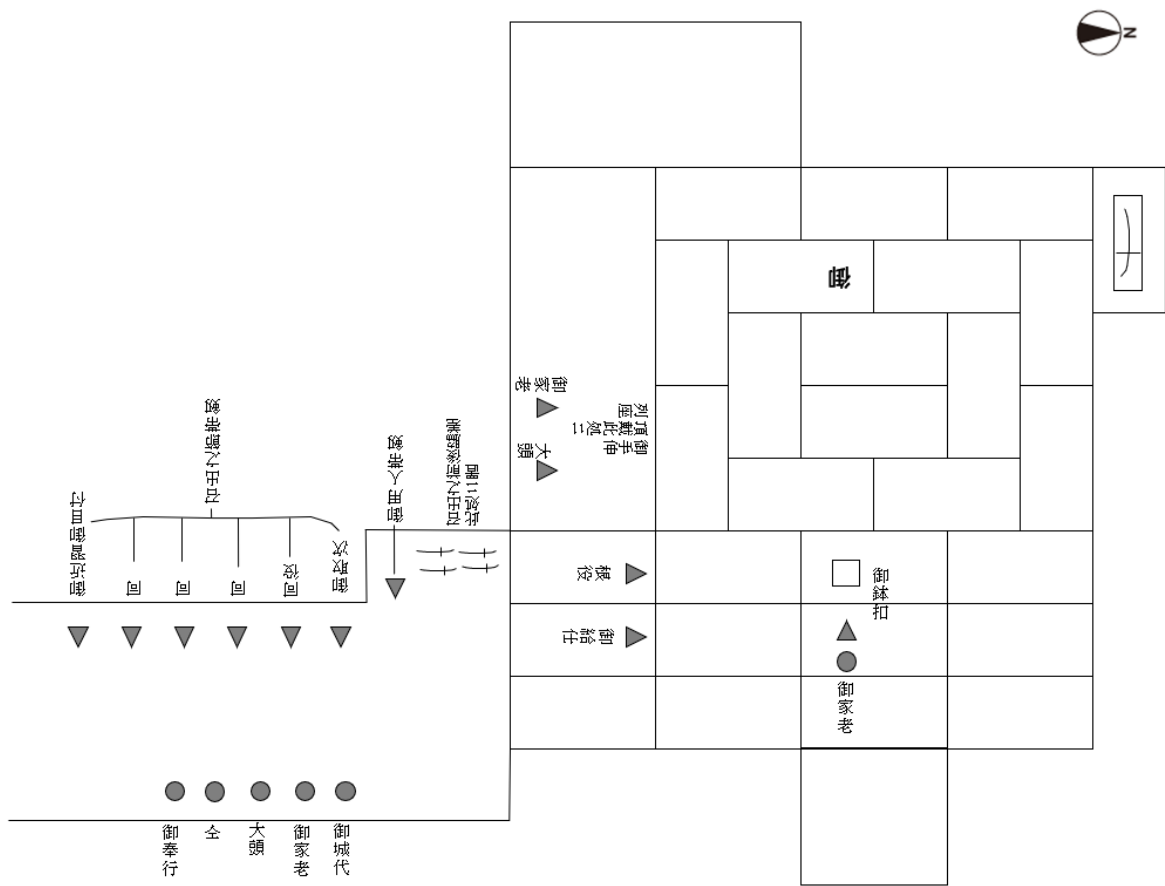
和暦	西暦	月	日	内容
天保6年	1835	6	28	長岡訓三郎（慶順、のち韶邦）、斉護の次男として江戸龍口邸で生まれる
嘉永年	1851	9		訓三郎、従四位下侍従に叙任。右京太夫慶順と称す
万延元年	1860	4	17	10代藩主細川斉護、没する
		4	27	藩主不例が報じられる
		5	8	慶順、熊本を発する
		6	14	慶順、江戸に到着する
		7	12	慶順、父の遺領を相続する
		7	28	江戸城に登城し襲封を謝す。越中守と改める
		9	19	慶順、江戸を発する
		10	24	熊本に到着する
		10	28	御一門衆・家老中松井胃助、中老1名、陽春間に召し出される
		11	1	五時、熊本城へ登城
		11	2	五時、泰勝寺・妙解寺へ参詣
		11	5・7・9・ 11・13	
11	18・20		祝能興行	

細川藩政史研究会編『熊本藩年表稿』1974年、「萬延元年庚申 御入国一卷」（永青文庫細川家文書4.5.178.1）、「萬延元年庚申年 慶順公御家督初而御入国御祝御規式帳 十月 二冊之内」（永青文庫細川家文書135）より作成

【図1】登城ルート（「初而登御城之節御順道附」（熊本県立図書館蔵）を元に作成）



【図2】御城御居間之図（「関家・宇野家文書」48）



【図3】鐘之段之図（「関家・宇野家文書」46）

